



巨乳中学生魔法少女に  
ムラムラして  
昏睡レイプしちゃった話

「すーっ……すーっ……」

「ほ、本当に寝ちゃってる……」

「お腹出して寝てると  
風邪引いちゃうよー？  
レナちゃん」

「……」

「ぐっすりみたいだ……  
あの薬こんなに効くなんて……」

「こ、これなら本当に  
何しても……！」



事の始まりは数時間前、  
姉からかかってきた一本の電話だった

要は  
「自分と夫と息子の3人が  
明日の夜まで帰れなくなった、  
娘を一人留守番させるのは不安だから  
たまたま家の近くに来ていた僕に  
泊まっていてほしい」  
というものだった

レナちゃんが生まれてから15年、  
『良い叔父』としてふるまっていた  
僕はすっかり信頼されきっていたのだ



しかしそれは娘に一人で留守番させるよりもよっぽど危険なことだと姉は、いやレナちゃんの母親は理解していなかった

レナちゃんの中学生離れしたそのプロポーションに僕は以前から劣情を催していたのだ

いつかこんなチャンスが来た時のため裏サイトで買った睡眠薬も常に鞆に忍ばせていた

そして僕は、レナちゃんの大好きなお菓子とジュースを買ってくることでまんまと薬を飲ませることに成功したのだった。。。



「ふふ、レナちゃん、  
幸せそうに寝てるな・・・  
見れば見るほど可愛いなあ  
レナちゃんは・・・  
それにこのおっぱい・・・」

「小学4年生ぐらいから  
胸の膨らみが見えてたけど  
まさかここまで  
成長するなんて・・・」

「ほ、本当に何しても  
起きないのかな・・・？」



「レ、レナちゃんくん？  
ちよっとだけ  
触るからね・・・」

「す、すごい・・・  
マシユマロみたい  
柔らかくて・・・  
それに弾力もあって  
気持ちいい・・・」

「ん・・・  
ふう・・・」

「・・・まだ起きないよね？  
レナちゃん」



「ああ……レナちゃん……  
凄い……凄いよ……」

「おっぱいがもう

手のひらに

おさまりきららないよ……

やわらかい……

レナちゃんのおっぱい……」

「んん……  
んん……」

「はあ……はあ……

レナちゃん……」

まじきゅん♡

まじきゅん♡

「やめて……」

「!？」

レ、レナちゃん……  
起きて……」

「ももこ……かえで……  
それレナのケーキだから……」

「ね、寝言……？  
ビックリしたあ……  
起きたらどうしようかと……」

「お友達の名前かな？  
レナちゃんが良い子だから友達が  
たくさんいるんだね……」





(うん、そうだよ・  
レナちゃんは優しい子だから  
叔父さんがおっぱい触っても  
許してくれるよね・・・)

(最近はあるまり  
話してくれないけど  
小さい頃はおじさんに  
よくなついてくれてたし・・・)

「ああ、それにしても  
レナちゃんのおっぱい・  
いつまでも触ってられるなあ・」



(こ、このおっぱい・・・  
生で触ったら  
どんな感触なんだろう・・・  
一回・・・一回でいいから  
触ってみたい・・・)

「レ、レナちゃんごめんね？  
ちよっと、ちよっと脱がす  
だけだから・・・  
一度でいいからおじさんに  
レナちゃんの生おっぱい見せて・・・」

「ん・・・」

「い、いいよね？  
レナちゃんの裸は  
十年前にも見てるし・・・  
今見ても同じだよね？」

もぎゃ♡

いっしょ♡

「手が邪魔だな・・・  
そつとどかして・・・  
起きないでね〜レナちゃん」

「あさ・・・アサナ〜」

おんおん〜

んんんんん





「ああ・・・やっぱりすっぴい・・・  
生のレナちゃんおっぱい・・・  
さらさらでふわっふわだ・・・」

「服の上から揉むより  
全然気持ちいい・・・！  
すっぴい・・・すっぴいよ  
レナちゃんー！」

むっぴい  
むっぴい

むっぴい  
♡



「はあ・・・はあ・・・  
レナちゃんのおっぱい  
本当にふつかふか・・・」

「こんなに驚掴みにしても  
おっぱいが手からこぼれて  
きちゃうなんて・・・」

「手が・・・手が  
幸せすぎる・・・」

もしま  
もしま

もしま  
もしま



「はあ・・・はあ・・・」

「ん・・・ん・・・」

「ももこ・・・  
くすぐったいわよお・・・」

(ふふ・・・まだお友達の夢  
見てるんだね・・・  
こんなにしても起きないなんて  
あの薬本物だったんだなあ・・・)

♡  
♡

「も、もっと強く揉んでも大丈夫かな・・・」

「ごめんねレナちゃん・・・  
たぶん痛くしないから・・・  
もっとおじさんに  
幸せ味わわせてね・・・」





「ああそうだ、乳首も  
いじってあげないとね・・・  
レナちゃんは  
乳首まで可愛いなあ・・・」

「こんなに綺麗な  
桜色の乳首して・・・  
ずっとくにくににしてあげたく  
なっちゃうよ・・・」



「ほら、ほら・・・」

「んん・・・うん・・・  
かえで・・・そこは  
だめだからあ・・・」

「あれあれ、

レナちゃんの乳首  
固くなってきちゃった・・・  
おじさんに触られて  
感じちゃったかな？  
寝ても感じちゃうなんて  
レナちゃんは本当に  
えっちな体してるねえ」

「ん・・・だめえ・・・」



「そうだ、  
レナちゃんが起きる前に  
この乳首  
味見しておかないと……」

「んっ……」

「んむ……れる……  
ああ、これが  
レナちゃんの味……  
レナぱい美味しい……」

（レナちゃんの恋人になる人は  
こんな美味しいもの  
毎日舐められるんだなあ、  
ズルい……ズルいよ……）

ちゅぽぽ、ちゅぽぽ

んぎゅん

「んっ  
あんっ」

「ん？レナちゃん  
声もえっちになつてきちやった、  
おじさんの舌が  
気持ちよかったのかな？」

（う、やばい・・・  
今まで我慢してきたけど  
レナちゃんのえっちな声で  
もうチンポが  
爆発しちやいそうだ・・・）

「・・・レナちゃん、  
ゴメンね、もうちょっとだけ  
おねんねしててね・・・」

ちやんっ♡  
ちやんっ♡

「はあ・・・はあ・・・  
まさかレナちゃんのおっぱいで  
パイズリオナニー」できる日が  
来るなんて・・・」

「よ、よし、  
行くぞ・・・  
この極上のおっぱいの間に  
チンポ突っ込むぞ・・・」



「あああ……凄いい……!!」  
凄すぎる……!!」  
なんだこれ……!!」

「レナちゃんのパイズリ  
気持ちよすぎる……!!」  
僕のチンポが  
おっぱいにつつまれて……!!」  
こ、これ……!!」  
マジです……!!」



「んんんん」

「ごめんねレナちゃん……  
こんなことして……!!  
でも、でもレナちゃんも  
悪いんだよ……!!」

「こんな、こんなおっぱい  
目の前で無防備に揺らされたら  
誰だってこうしたくなるんだよ……!!  
ねえ、レナちゃん!  
僕のせいだけじゃ  
ないんだよ……!!」

「んんんん」

「んんんん」

「ああヤバイ・・・!!  
も、もう出ちゃいちゃうし・・・!!  
このおっぱい  
気持ちよすぎる・・・!!」

「だ、出すよ! レナちゃん!!  
レナちゃんの綺麗なお顔に  
おじさんの精子ぶっかけるよ!!  
ごめん! ごめんねっ!!」

「んっ」

「んっ」

「んっ」





「うっ……うっ……  
イクっ!!」

「はあ……はあ……  
や、やっっちゃった……  
あ、あのレナちゃんに……  
女子中学生の姪っ子に  
パイズリさせて  
思いつきり  
ぶっかけちゃった……!」

ジュルル

ジュルル



「流石にやばいかと思っただけど……  
レナちゃん、マジで全然起きない……  
まだまだ大丈夫だ……」

「お、おまんこで……  
今度はレナちゃんのおまんこで  
おもいっきり射精したい……  
やるなら今しか無いんだ……！  
や、やるぞ……!!」



「ああ、夢みたいだ  
レナちゃんと一つになれる  
日が来るなんて・・・  
良い叔父を演じてて  
本当に良かったなあ・・・」

「じゃあレナちゃん、  
今からおじさんのおちんちん  
挿入れてあげるからね・・・」



「んっ・・・♡  
ぎっ・・・♡」

「レナちゃんちよつと我慢してね  
痛いのは最初だけだから・・・  
あと、もうちよつと・・・!!」

「ふうっ!  
はあ・・・はあ・・・!  
お、奥まで入ったね、  
レナちゃん・・・  
レナちゃん・・・!!」



「あああ、レナちゃんのおまんこ……  
全方向からギユウギユウに  
締め付けてくる……!!  
気持ちよすぎ……!!」

「んんっ……♡  
あっ……♡♡♡」

「この顔とおっぱいとおまんこがあれば  
レナちゃんが好きなアイドルより  
ずっと人気になれるよ……!!  
ねえ、レナちゃん！」

「うう……♡」



「はあっ！はあっ・・・！  
ふふっ！レナちゃん！  
おっぱいはこんなに重たいのに  
体は羽のように軽いねっ！」

「ああんっ・・・♡」

「ふわっふわのおっぱい揉みながら  
レナちゃんをガンガンに  
犯せるなんて・・・  
最高っ！最高っっ・・・！！」



「だめっ・・・♡  
あぁっ・・・♡」

「もう、レナちゃんさつきより  
ずっと色っぽい声出しちゃって・・・！  
今度はえっちな夢でも見てるのかな？」

「おっぱい揉まれながら  
おまんこ思いつきり突かれても  
起きずにえっちな夢見てるなんて・・・  
レナちゃん本当はえっちなこと  
大好きなんですよ？」



「ううっ・・・」

も、もうイキそうっ・・・！  
中でっ・・・中で出すよレナちゃん!!  
ねえっ! いいよねっ!?!?」

「はあっ・・・♡  
いやあっ・・・♡♡♡」

「赤ちゃん出来ちゃったら  
ちゃんと僕がレナちゃんを  
お嫁さんにして責任取るから!  
おじさんの精子!  
たくさん受け取ってね!!」

「らめっ♡  
らめえっ・・・♡♡♡」





「ぐっっっ!!  
射精るっ! 射精るうっっ!!」

「あぁっっっ  
あっっっ」

「うう、さっき出したばっかかりなのに  
めちやくちや出る・・・  
レナちゃんのおっぱいとおまんこは  
男から精液搾り取るためにあるんだね・・・」

「はーっっ  
はーっっ」



「あー出た出た出た・・・  
もしかしたら一発で  
妊娠しちゃったかもね・・・」

「んっ・・・♡  
うう・・・♡♡♡」

「ははっ、チンコ抜いたら  
残念そうな声出しちゃってる・・・  
ひよっとしてレナちゃん、  
もっとしてほしかったのかな？」



「でも大丈夫だよ、レナちゃん  
サイトによるとお薬の効き目はあと  
三時間以上あるからね・・・」

「おじさんの絶倫チンコで  
本当に赤ちゃん孕むまで  
何回も何回も中出ししてあげるから、  
もっとももっと楽しもうね♥」

